

オオガハスや花ハスに関するFAQ（よくある質問）

| Q:よくある質問 | A:答え |
|------------------------|--|
| 1 オオガハスの名前の由来は？ | <p>昭和27年(1952)、植物学者の大賀一郎博士が花見川区の旧東大検見川厚生農場の地下約5mの青泥層から、2500年前の古代ハスの実を発掘し、翌28年(1953)7月18日に開花させた。昭和29年(1954)、出土場所と発見者名を採り「検見川の大賀蓮」として千葉県天然記念物に指定される。以来、古代ハスは「大賀蓮(おおがはす)」と名付けられた。※品種名の語尾が「蓮」の場合「ばす、れん」と読むが、大賀蓮は「はす」としている。</p> <p>「おおがはす」の表記は、「大賀蓮」「大賀ハス」「オオガハス」の表記が混在している。市の花・木・鳥がすべてカタカナ表記であることから、「千葉市の花・オオガハス」としている。</p> |
| 2 オオガハス以外に古代ハスはあるの？ | <p>大賀蓮(2000年前)、行田蓮(行田の古代蓮、1400～3000年前※)、城沼古代蓮(1400～3000年前)、中国古代蓮(フランテン蓮、1000年前)、中尊寺蓮(800年前)などがある。※ラジオカーボンテストの結果は1400年前だったが、考古学的には2500年から3000年前のものだと推定されていることから。</p> |
| 3 何日間咲くのか？ | <p>開花してから、花が散るまで4日間。2日目の花容(色や形)が最も優美とされる。</p> |
| 4 観賞の時間帯は？ | <p>開花する時間は、1～4日目の花や天候によって異なるが、お勧めの観賞時間帯は、全開するおおむね朝の6～8時。</p> <p>それを過ぎると、少しずつ閉じ始めて、正午前後には閉じてしまう。</p> |
| 5 初花の時期は | <p>オオガハスも含めたハスの花は、蕾が水面から出現してから、18～20日後に開花する傾向がある。概ね5月末から6月上旬頃。</p> <p>一昨年(2023)は5月12日に初蕾を確認し、5月31日(19日後)に開花した。なお、昨年(2024)は5月15日に初蕾を確認し、6月4日(20日後)に開花した。本年(2025)は5月16日頃に初蕾を確認し、6月7日(22日後)に開花した。</p> |
| 6 見頃の時期は | <p>近年は5月末から6月上旬に開花し、6月下旬から7月上旬に花数のピークが現れ、6月中旬から7月上旬頃、ハス池一面にオオガハスが観られる。8月下旬には開花数がほぼゼロになる。</p> <p>昨年(2024)の初花は6月4日で、開花のピークは6月25日(初夏の21日・3週間後)、見頃時期は6月16～30日(初花の12日後26日後の約2週間)であった。</p> <p>なお、過去の千葉公園ハス池の開花状況を調べた結果、花数がピークになる前後の1週間が見頃となる傾向があることが分かった。</p> <p>また、開花のピークは、初花の3～4週間後に出現達する傾向があり、初花の開花日などからある程度、見頃の時期を予想できる。</p> |

| | |
|-----------------------|---|
| 7 オオガハスの過去の最高の開花数？ | 昭和27年(1952)の初めての開花から数えての開花70周年(2022)を迎えた令和4年の940個が過去最高。 令和3年:756個、同4年:940個、同5年:687個、同6年:916個 |
| 8 ハスとスイレンの違いは？ | <p>どちらも水生植物だが、ハスは抽水植物(水底に根を張り、茎の下部は水中にあり、茎か葉の一部が水上に突き出ている植物)、スイレンは浮葉植物(水面に葉を浮かべ水底に根を張る植物)に分類される。</p> <p>開花時期は、ハスは6～7月に咲きだし8～9月頃まで咲く、スイレンは5～6月に咲き始め10月頃まで咲く(品種による早晚あり)。</p> <p>ハスの葉は円形で切れ込みがなく、浮葉と立葉があり、撥水性と光沢がある。スイレンの葉は、円形から楕円形で切れ込みがあり、浮葉のみ、撥水性なく光沢がある。</p> <p>花は、ハスは水上で咲いて散り果托ができ、スイレンは水上に浮ぶように咲き、咲き終わると水中に沈み果托ができない。</p> <p>ハスは蓮根を形成するが、スイレンは形成しない。</p> |
| 9 ハスの開花音は？ | <p>結論としては、大賀一郎博士はハスの開花音は科学的には聞こえないが、ハス池から聞こえてくる自然の音「風流音」は聞こえてくるとしている。</p> <p>大賀一郎博士は、昭和11年夏、上野の不忍池でのハスの開花音の公開実験で、ハスの花にマイクを付け、アンプで500倍に増幅してレコード盤に記録した。</p> <p>その結果、パンとかポンという破裂音は聞こえなかったが、「カッカッ、トットツ、コッコツ」といった音が記録され、開花する時に花卉同士がすれる音で、人間の耳には聴きとれないほどの小さな音だった。</p> <p>その結果、大賀博士は、早朝のハス池でどんな音が聴こえるのかも観察したところ、目が覚めたコイやフナが水面をとぶ虫を「パクッ」と吸い込む音、葉の上の露が風に揺れて「ポチャリ」と転がり落ちる音…が人の耳には「ポンやパン」と聞こえ、「ハスが開花する音」と勘違いし、これを大賀博士は「風流音」と呼んだ。</p> |
| 10 ハスはどんな香りするのか？ | <p>資生堂開発研究所の蓬田氏は、約50種のハスの花から香りを集めて、分析した結果、花の香りのほとんどは雄しべ(葯など)から放たれたものと明らかにしている。</p> <p>開花とともに香りが出て、2日目最も匂いがする。フェノール系の清々しい香りで、ほかの花に例えると、ライラックやヒヤシンスなどの「甘い香り」に、「ミントの香り」を加えたような「清涼感」のある香りである。</p> |

| | |
|-----------------------------------|---|
| 11 花は発熱するの？ | <p>ハスの花は開花前日から開花3日目までの4日間、「発熱」が盛んに行われるため、花托の温度を30～35℃に保つ。</p> <p>その目的は、受精時の低温回避、昆虫の誘導などによると言われており、1日目の花の先端からそっと指を入れると、花の発熱を体感できる。</p> |
| 12 果托はどうするの？ | <p>千葉公園のハス池では、大賀一郎博士から分根されたオオガハスの品種を保存するため、種子による繁殖ではなく、ハス根（蓮根）による栄養繁殖（※）で栽培している。</p> <p>なお、他の品種と交雑して雑種のハスが出ないように、花が散り、実を結んだ種が池に落下する前、種子が未熟なうちに果托は可能な限り刈り取っている。</p> <p>※種子以外の器官（根、茎、葉など）を利用して増殖すること</p> |
| 13 オオガハスは食べられるの？ | <p>ハスには、使い道によっては大きく分かれて「食用ハス」と観賞用の「花ハス」がある</p> <p>オオガハスは観賞用の花ハスで、そのレンコンは食べられるが、皆さんが普段食べる食用のハスと比べ、細くてねっとりしているため、酢バスのような食感を味わう料理には向いていない。</p> <p>その代わりに、きんぴらやレンコン餅などに向いており、また、少し筋っぽいため、冷凍してから調理すると食べやすくなる。</p> |
| 14 ハス葉の上に溜まる水がぷくぷくと泡立っているのはなぜ？ | <p>地下茎で呼吸されて二酸化炭素を含んだ空気は、葉柄を通じて送り出され、気孔が開いているときに空気が出るため、葉と葉柄の接続部に溜まった水がぷくぷくと泡立つ現象がおきる。この現象は「低温沸騰」や「常温沸騰」ともいわれ、指で触れても熱くない。</p> <p>晴れた日には、葉と根茎とのガス交換が盛んに行われるので、低音沸騰の現象がよく観察できる。</p> |
| 15 ハスが泥の中で生きられるのは | <p>ハスも含めた植物の根は、空気中や水中の酸素を吸って、生きている。</p> <p>ハスやイネなどの水生植物は、葉から取り入れた空気を葉柄や茎の通気孔を通じて、根に酸素を送っている。呼吸した後の余分な二酸化炭素などは、葉を通じて再び空中へ放出される。</p> |
| 16 オオガハスの年代測定は | <p>発掘された3個の古代ハスの実はすべて開花実験で使ってしまったため、ハスの実と同年代の地層から出土した丸木舟の木片を使って放射性炭素(C14)による年代測定を行った。</p> <p>その結果、約3000年前と推定されたが、大賀一郎博士は、考古学的な年代推定、さらに「タンパク質の凝固と温度の関係」という独自理論などから総合的に判断し、ごく内輪に見積もって、古蓮実の年代を「2000年前」と推定している。</p> |

| | |
|------------------------------------|---|
| <p>17 千葉公園で初めてオオガハスが咲いたのは？</p> | <p>昭和27年(1952)7月18日にオオガハスが初めて咲いた翌28年(1953)の8月5日に、千葉公園内で現在のアジサイや花ショウブが咲く弁天池に、初めて咲いた。かつて、荒木山の展望台脇にもコンクリート製の池でオオガハスを栽培していたことがある。</p> |
| <p>18 千葉公園の蓮華亭やハス池はいつできた？</p> | <p>平成4年(1992)の政令指定都市を記念に、「市の花」にオオガハスが制定され、平成6年(1994)に蓮華亭や 900㎡のハス池が完成した。</p> <p>令和5年(2023)に、蓮華亭内の大賀ハスの展示リニューアルが行われ、モニター画面で、オオガハスの実の発掘状況や花の4日間の流れなどが学べる。</p> |
| <p>19 千葉公園ハス池の植え替えは</p> | <p>ハス池約900㎡を(北側・中央・南側)3つの区域に分け、3年で全体が植え替えできるローテーションで実施している。</p> <p>植え替え時ハス池全体に、元肥として有機入り化成肥料(N:8-P:9-K:7-Mg:2)156g/㎡、苦土重焼リン(く溶性リン酸35%※、内水溶性リン16%、く溶性苦土4.5%)89g/㎡を施用している。</p> <p>※根から出るクエン酸や土壌中の弱い酸に溶け出すため、水溶性のリン酸よりもゆっくりと吸収され、リン酸が固定されやすい土壌に有効。</p> |
| <p>20 市内で他にオオガハスが観られる？</p> | <p>1「しらさぎ公園」は花見川区役所付近にあり、約370㎡のハス池がある。</p> <p>2「花ハス見本園」(東京大学旧緑地植物実験所跡)は、花見川区の東大総合運動場のそばにあり、国内外の約100種のハスが栽培されている。7月の開花時期に「観蓮会」を開催している。</p> <p>3「見浜園」は美浜区の幕張海浜公園内の池にあり、千葉公園ハス池と同じ時期に観賞できる。</p> |
| <p>21 オオガハスは今まで分根された？</p> | <p>これまで、国内外の約250か所に分根されている。</p> <p>そのうち、海外には17か国で、ドイツ、アメリカ、韓国、カナダ、オーストラリア、ベトナム、タイなどがある。</p> |
| <p>22 千葉市の主な取り組みは？</p> | <p>1 オオガハスの純粋な種を保存するため系統保存を行っている。</p> <p>2 希望のある市内小学校への分根及び栽培指導</p> <p>3 オオガハスの栽培管理、大賀ハスマつり等のイベント開催、ボランティアの「ハス守さん」の育成及び活動支援</p> <p>4 オオガハス文化伝承事業(花見川区役所)</p> <p>5 オオガハスの妖精「ちはなちゃん」のPR</p> <p>6 オオガハスに関する都市間交流</p> <p>7 オオガハスの魅力発信アクションプランの推進</p> |